

## 特別講演

# 埼玉県における Office Urology

石井クリニック（浦和） 院長 石井泰憲

埼玉県は人口が724万人で泌尿器科医は200人、Office Urologyは40施設しかない。これに対して、人口が908万人の神奈川県では泌尿器科医が430人、Office Urologyも140施設と多く、役割も認知されている。今後は埼玉県でもOffice Urologyの存在を広報する必要がある。

石井クリニックの現状：パチンコ屋と松屋にはさまれ、上の階はスナックと、患者さんが入りやすい雰囲気、駅から徒歩1分という立地条件に恵まれた環境。月別患者数では1,600～1,900人、季節変動がない。当院の情報源は2010年でインターネットとかかりつけ医が多く、半数以上。その後4年間でインターネットは倍増。

### ① 前立腺肥大症について

患者が不安、不満に思っているのは夜間頻尿、排尿御尿滴下、尿閉、PSA変動。このため、アルコール飲酒後の尿閉には前もって、ディスポ・カテーテルによる導尿法を自分できるように指導。突然の尿閉でも、本人が対応できるので安心。夜間頻尿は、夜間多尿の原因が多い。水分制限で改善も多いが、難治性のこともある。ロキソニンの就寝前投与で70%以上有効。ただ、BNPで鬱血性心不全との鑑別、腎機能の定期的チェックが必要。

### ② 前立腺癌について

さいたま市は平成15年より市民健診にPSAを取り入れ、異常値は生検可能な病院とOffice Urologyで精査。

医師会でOffice Urologyを認知させるのは重要。癌が発見された場合、治療法、施設の情報を提供、患者の意志で決めてもらっている。癌が発見されないPSA高値の患者は不安で、かかりつけ医にもどらないので、病院の外来やOffice Urologyで経過観察。当院は、年間に約100例の前立腺生検施行。20～35例に癌発見。他の患者に癌はなく経過観察のグレーゾーン。PSA測定で観察しながら、前立腺肥大症の治療もしているのが大半。

### ② 長期留置カテーテルについて

腎機能の観点からも尿路感染症より、カテーテル閉塞が問題。感染防止を行わなくても、定期的な交換、洗浄でのカテーテル閉塞管理のみで26年腎機能低下なしの患者もいる。カテーテルは閉塞防止が重要である。

また、蓄尿バッグによる拘束は留置患者の最大の苦痛。これには昼間でのDIBキャップの使用で、患者は蓄尿バッグから開放され、日常活動が自由にできるようになる。DIBキャップはQOLを向上させ、大変有用である。

### ③ 女性泌尿器科について

骨盤臓器脱のなかで、膀胱瘤は排尿障害を伴うので、手術の適応になるが、手術不能や希望しない患者は保存療法。最近、M型リングが認可、膀胱造影(立位)で膀胱の下垂を挙上し有効性が認知されている。

### ⑤ 性感染症について

泌尿器医は淋病、クラミジアの治療には熱心だが、ウイルス感染に関心がうすい。だが、

泌尿器科・受診希望のウイルス感染患者は多い。性器ヘルペス、尖圭コンジローマはOffice Urologyでもっと扱うべきである。

#### ⑥ 画像診断について

超音波診断装置(エコー)は診察ベッドのそばに置き、聴診器と同様に触診の代わりになるように、気軽に使用した方がよい。早期診断もでき、有用である。CT、MRなど大型器械は持っている施設に、電話ですぐ依頼できるようなルート作成が必要。当院は病院の放射線科と親密に連絡。これで病院外来と近い診療が可能になる。

#### ⑦ Office Urologyの診療範囲

Office Urologyの定義は、入院ベッドを持たなくて、泌尿器科診療を施行しているクリニックと思う。病院での泌尿器科外来の主要な内容だけに限らず、明治時代からクリニックは性病科、包茎、精管結紮の小手術を行なってきた。血液透析が開発され普及するにつれ、泌尿器科医が率先してクリニックに導入、これらをメインとする開業がブームの時代があった。現在は、前立腺肥大症の日帰り手術、排泄管理からの在宅医療、尿失禁や骨盤臓器脱の女性泌尿器科などOffice Urologyは広範囲になってきている。泌尿器科専門の開業医も増加の傾向。私は57歳でOffice Urologyを開業したので、患者が求めている医療を提供できるように、病院時代に携わることが少なかった分野を再勉強することで、自分を活性でき、良い経験ができたと思っている。